

第 10 期武蔵野市環境市民会議（第 13 回） 会議要録

日時 令和元年 10 月 28 日（月） 18 時 30 分開会
 場所 武蔵野市役所 811 会議室
 出席者 委員 10 名、事務局 5 名
 （委員：大江委員長、鈴木副委員長、朝日委員、新井委員、一ノ瀬委員、千葉委員、白田委員、服部委員、松村委員、木村委員）
 内容 ①第 10 期環境市民会議の成果（案）の内容について
 ②その他

① 第 10 期環境市民会議の成果（案）の内容について

発言者	要旨
委員長	平成 29 年度から第 10 期環境市民会議としてこれまで 12 回にわたり、環境基本計画の進捗を確認しながら、学び、話し合いをしてきた。11 月末に 2 年間の任期が満了となることを受け、今日はこれまでの会議を振り返りたい。過去 12 回の会議の概要と、委員のみなさんから発言のあったことの中から主な意見を抜き書きした資料を事前に送付した。補足したいこと、修正したいことがあれば、ぜひご発言いただきたい。第 11 期環境市民会議に引き継ぐ際、優先して検討すべきと思われる点についてもご意見いただければと思う。
事務局	（資料 1 に沿って、環境方針 1 部分を説明した。）
委員長	環境方針 1 は、環境啓発の在り方にかかる部分である。ご意見はあるか。
委員	先日の台風で、気候変動に対する危機感は増したのではないか。環境保全や対応策の大切さを啓発していく必要がある。
委員	温暖化に関しては様々な説があるが、海水温が上がると水蒸気が沢山供給されて強い台風になると言われている。 子どもたちに、温暖化に対して何ができるかを考えさせることをしている。誰かがではなく、わたくしから。恐怖心ばかりになっているが、明るい未来にしていくために、どう考えていくかだと思う。
委員	地道な努力は必要で、特に子どもから教えていくことは重要。
委員長	子どもたちのほうがわかっている場面もある。行動につなげるための鍵を握っているのは大人で、経済や社会の歯車をどう回していくのが問題。まさに SDGs の発想で、市民と自治体のつながりが必要となる。教育では地道にやっていくことが大切である。
委員	エコプラザ（仮称）で開催している「環境の学校」では、まず「2050 年の天気予報」を見せている。最近では「2100 年の天気予報」も作られているが、これらは、温暖化が進行しないためにどうすればよいか、考えるきっかけになる。
委員長	バックキャストメソッドで、ゴールに向けてどうしていけばよいか、というアプローチは有効である。
委員	市の長期計画については、福祉などの直近の課題のほうが優先順位は高くなってい

	る。環境はボディブローのように効いてくるもので、長期計画に具体的には入れ込めていない。次期の長期計画が策定される 10 年後には環境問題がクローズアップされているはずなので、次期環境基本計画で踏み込み、次期長期計画に反映させたい。
委員	子どもたちに、いかにして CO2 を減らせるか、家電の消費電力量をワットアワーメータで見せて実感させようと思っている。
委員	そのような身近な体験は、子どもに伝わると思う。
委員	緑を増やしていけば、CO2 は吸収されるか。
委員	ある大学の研究結果には、小さく点在している緑が効果的であるとあった。
委員	6～9月の空気中における CO2 濃度が低いという観測データがある。これは夏場に緑の葉が生い茂り光合成が盛んであることが影響していたようである。
委員長	環境のようにボディブローのように効いてくるものと、福祉など直近の課題とを、別のものと考えてはいけない。すべてを環境と関連させるという視点が必要で、まさに SDGs だと思う。スウェーデンでは法体系を環境憲法的に組み立てなおしている。
事務局	(資料 1 に沿って、環境方針 2 部分を説明した。)
委員	自動車の排気ガスの問題、EV (電気自動車) 化についても重要ではないか。
委員	太陽光発電システムの普及率はどうか。
委員	武蔵野市は土地が狭く既設の住宅が多いことから普及率は高くない。CO2 排出抑制のために、こまめな節電などのソフト面だけでは追い付かない。抜本的な施策やハード面の対策が必要。藤沢 SST (サステイナブルスマートタウン) や旭化成ホームズの方にお話しいただいたような ZEH の普及など、技術革新が必要である。スマートメーターや EV もそうだろう。国の政策と連携して、普及させなくてはならない。
委員	計画には水素に関する項目が無いようですが、次世代のエネルギーとして重要だと思う。現在は、一般消費者が普通に購入できる汎用品となったエネファームや燃料電池自動車は、水素利用技術の開発、普及に貢献している事例。家庭用燃料電池エネファームもハイブリッド自動車を超す速度で普及している。コスト削減とあわせて効率が上がってきている。九州で太陽光発電による給電の過多で、出力抑制を行ったような事例では、自家消費しても余った分を電解水素として貯めるという水素利用の技術に今後期待している。燃料電池自動車については、今はまだ水素ステーションが少なく移動手段としては課題もあると思うが、東京都も水素活用を推進していることから武蔵野市でも検討に加えてはどうか。
委員長	市街地における自動車の長期的な対策については次期計画に盛り込む必要がある。住宅と並んで 2 大エネルギー要素である。乗り入れ規制をするのか、ムーバスの利用促進をするのかなど。
委員	市役所では庁用車の EV 化を積極的に進めている。EV はバッテリーともなるため、蓄電池の代わりとして災害対策ともなる。市役所には燃料電池車が 1 台あるが、一番近い水素ステーションが高井戸とまだまだステーションが少ない。また、燃料電池車は補助金を使ってもまだ購入費用は高い。
委員長	固定買取価格制度が実質終わり、売電価格も 14 円まで下がっている。太陽光発電システムは ZEH には必須アイテムなので、どう普及させ活用していくかが問われる。

	生産緑地などではソーラーシェアリングも考えられる。市街地でできる創エネはやはり太陽光だろうと思っている。
委員	太陽光と蓄電池、またはEVという組み合わせは、自家消費、災害対策につながる。
委員	太陽光発電システムの電力を売るよりも、ためるか、すべて消費するかだと思う。蓄電池はまだ性能が足りず、また費用が高額である。その点EVは性能がよく、V2H (Vehicle to Home) で、電気自動車と家をつなぐというのが、未来の地産地消の姿かもしれない。
委員	太陽光パネルの技術革新は進んでいるのか。
委員	効率はかなり上がっている。ただコストもその分かかる。安さは普及に重要であるが。
委員長	様々な新電力事業者が出てきているが、玉石混交ということはないか。
委員	市でも新電力事業者に移行することとしている。市では電力調達にかかる環境配慮指針を策定しているため、ある程度排出係数が低い電力会社と契約することとなるが、新電力も、エネルギーの取り合いをしているというのが実態だと思う。また、再生可能エネルギーの普及と電力自由化が必ずしも結び付いていないという印象だ。
副委員長	風力、地熱発電が増えていて、再エネによる総発電量は悲観的にならずとも増えると思う。ただ、発電量は地域に偏りがあるため、発電してもそのすべてを送電できず使えないことのほうが問題だ。国全体での供給方針では原子力発電が期待されているようだが、実際とはギャップがある。市レベルで考えるのは難しい。
委員長	エコプラザ（仮称）で、市が知りえる情報を発信し啓発していくとよい。
事務局	（資料1に沿って、環境方針3～6部分を説明した。）
委員	環境方針3だと、食品ロスや海洋プラスチック問題には触れたい。環境方針4については、武蔵野市は緑を大切にきてきて、玉川上水などは水辺と緑のあるよい環境だが、それらをどう守っていくかが課題と思う。民有地の緑をどう守っていくかという課題もある。環境方針5については、都市マスタープランにも環境の側面を盛り込んでいきたいと思っている。無電柱化もその一つである。環境方針6については、集中豪雨による治水対策が進んでいないところもあるので、グリーンインフラを含め緑と水、まちづくりの要素をあわせたものを考えていかなければいけない。また、ヒアリについては、昔は冬場になれば生きられなかったのに、気候変動で生き延びてしまっている。対策を練る必要が出てきている。
委員	農地をどのように守っていくのが大切。武蔵境あたりの大規模開発によって町並みも変化してきている。農地が宅地化され、生物の生息できる場所をどう守るのか。また、緑があることで夏でも気温の上昇が抑えられていたが、最近では、武蔵境駅に降り立ったときの、都心よりも気温が下がる感覚がなくなってきた。自分で実感することが、環境を守る意識につながるとよい。
委員	藤沢 SST では、生ごみは燃えるごみとして収集しているという話だった。ごみ処理はエネルギーを必要とするので、市では生ごみをたい肥に変えるなどの取り組みをしてはどうか。
委員	団地内で収集してたい肥化していたこともあったが、一次たい肥を作る機械がかなりのエネルギーを消費すること、たい肥を完成させるまでにさらに別の場所（二次たい

	肥化)に運搬しなければならないことなど課題がある。個別にたい肥化ができる仕組みが必要と思う。
委員	学校の校庭に貯水槽が設置されているが、大雨が連続した際、オーバーフローすることはあるのか。
委員	貯留浸透施設なので、時間をかけて土中に浸透させていく仕組みである。大雨等で施設の容量を超えることがあれば、下水道管に流れることとなるが、一定の効果はある。
委員長	災害廃棄物についてはどのような扱いになるのか。
委員	基本計画である災害廃棄物処理計画はあるが、具体計画は策定していない。災害廃棄物を集積する場所として緑町の野球場を指定している。
委員	学校での環境教育は、どのような取り組みとなっているか。
委員	環境については、国語、理科、道徳、家庭科など各教科の中で教えている。理科で植物の光合成で酸素ができる仕組み、家庭科で油を下水に流さないといったふうである。環境問題の解決にすぐには結び付かないのかもしれないが、正しい知識を小学生のうちに身につけさせ、のちのち結び付くことを期待している。学校全体で省エネの取り組みを推進したことがあったが、数値として効果が見えるようになるには時間がかかることがわかった。エアコンを27℃設定にしても実際の室温が30℃を超えてしまったり、プールの水を使い続けようとするとうま水になってしまったり、10年前とは対応の仕方も変わってきてしまっているのを感じる。ただ、子どもに働きかけると、まっすぐに伝わる。保護者にも子どもから伝わることも多い。
委員	環境教育の中に、4大公害は含まれるのか。
委員	社会科の中で扱っていると思う。
委員長	この場で言いそびれてしまったことなどあれば、事務局のほうへ問い合わせしてほしい。
事務局	会議後一週間を目安に、ご意見いただきたい。今日の会議でのご意見とあわせて、この成果(案)に反映させ、次回会議の前にみなさんに送付したい。

② その他

発言者	要旨
事務局	<p>前回の会議で検討いただいた意識調査について、市民意識調査は9月20日に2,000通、事業者意識調査は10月4日に200通をそれぞれ郵送することができた。10月18日を締め切りとしていたが、締め切り後もポツポツ届いているところだ。今日現在、市民意識調査は644通、回収率32.2%、事業者意識調査は35通、回収率17.5%である。集計し、次回の会議では速報版になるが、お知らせしたい。</p> <p>「環境施策に関する年次報告書_平成30年度版武蔵野市の環境保全」を配布したが、前回配布したものから内容に大きな変更はない。会議の中でご指摘いただいていた、SDGsのそれぞれのターゲットについて説明するページを追加しているので確認いただきたい。</p> <p>11月10日(日)には、一年に一度の環境啓発のイベントである環境フェスタを開催する。今回のテーマはSDGsとして、SDGsシールラリーも企画しているので、ぜひご</p>

	来場いただきたい。 次回は11月下旬に会議を開催したいので、日程はあらためてお知らせする。
委員長	次回は第10期環境市民会議の最終回となるので、よろしくお願いいたします。